

サービック第二事業所の要員状況はひっ迫している！ 早急に要員を確保せよ！

現在、サービック新大阪第二事業所営業二科の要員状況がひっ迫しています。

4月11日、サービックとの団体交渉（新大阪第一事業所での検修業務直轄化に関する問題について）の前段に、第二事業所の要員問題についてやりとりを行いました。

J R 東海労新幹線関西地本は、「具体的な要員確保」をあげて、早急に実行するように強く要請しました。

（以下、やりとりの要約です）

組合：ホームページの募集は遺失だけで、車いすの介助業務は募集していないのか。

会社：新大阪駅での介助業務は大変なので、新大阪駅のことをわかってからの方が良いと考えている。（第二事業所の）他から介助に来るのが良い。

組合：鉄道業務を知らない人が来たら大変なことは同感だ。遺失からだ少し見習いをすればひとり立ちできる。営業二科に配属されているが退職も発生している。遺失からの助勤を常勤にする考えはないのか。

会社：遺失や他の整備業務からの担務変更や、京都事業所からの異動は有りだと思っている。助勤を日々繋いでいくことも有りだ。

組合：本社として早急に対処・手立てをしないと、車いすなどの介助業務がかなりしんどい状態だ。マネージャーが下位職充当としてスタッフ業務を行っている。本来は良くないことだが、本社は把握しているのか。

会社：下位職充当はある程度発生していることは承知している。下位職充当がずっと続くとなると、あるべき姿からいえばそうではない。

組合：だから速やかに要員問題を解消しろというのが労働組合としての要求だ。これまで具体的な要員確保については何度も言っている。サービック退職後に希望する人を再雇用で採用することは考えているのか。

会社：定年を迎えたプロパー社員が希望すれば、会社の需給の問題はあるが、管理職の下位職充当を勘案すれば、引き続き働いてもらうのは有りかなと考えている。

組合：出向社員についてはどうなのか。

会社：出向社員については、65歳まではJ R 東海と会社（サービック）間の契約なので、65歳以降については我々がどうこう口にする権限はない。

組合：J R を退職した人がサービックの採用に応募すれば積極的に採用すれば良い。

会社：応募することは問題ないし、止めてもいない。応募があれば是々非々で判断する。

組合：現在の要員状況はかなりひっ迫している。遺失からの助勤、経験者で希望する人を積極的に採用することが、労働組合としての具体的な要求である。

一刻の猶予もない！ 直ちに要員確保に向けて実行せよ！